

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
科学的根拠に基づくがん情報の提供及び均てん化に向けた体制整備に資する研究（23EA1026）
（分担研究報告書）

がんの診断時に適切に患者等に情報提供する方策の検討

研究分担者 高山 智子 静岡社会健康医学大学院大学 教授
国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部 客員研究員

要旨

がん拠点病院では、令和4年8月に出された「がん診療連携拠点病院の整備について」（以下、整備指針）において、がん相談支援センターの周知について、特に「外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センター（以下、相談支援センター）を訪問することができる体制を整備することがのぞましい」ことが明記されて以降、どのように体制整備を行うかが課題となっている。そこで、本年度は、“外来初診時からの相談支援センターの訪問”についての好事例紹介を含む講演会を開催し、取り組み内容の情報共有をはかるとともに、相談支援センターの運営上の困りごとを収集し、対応策を検討することを目的とした。

2024年11月27日（水）に「がん相談支援センター向けオンライン講演会」を厚労科研高山班（23EA1025）と共同開催し、参加者に「相談支援センターの運営に関する困りごと」を自由記載で求め、その内容を分析・検討した。

オンライン講演会の申込者514名のうち自由記載で困りごとを記載したのは169名であった。記載された内容全186件のうち、相談支援センターの周知や来院時の訪問に関する内容は最も多く、全体の43.5%を占めた。相談支援センターの周知に関して、医師や医療従事者への院内の周知が難しいことやその背景としての組織体制等の各病院の事情による苦慮を示すもの、また来院時訪問については、取り組みたいが具体的なやり方がわからないといった声も散見された。

相談支援センターの運営上の困りごとには、周知や来院時の訪問に関するものが最も多く、相談支援センターの関係者らが関心を持って取り組もうとしている姿がうかがえた。今回行ったようなオンライン講演会のような場を通じて、各施設の工夫や取り組みを知ること、自施設に役立てられる方策も見つけやすく検討できるのではないかと考えられた。

A. 研究目的

がんを心配して情報を探し始める場面から適切に、患者らが正しい情報を入手できるようにすることは、患者らにとってよりよい、納得のいく治療や療養を送る上でも重要である。このようながん情報を得られるための活動として、がん診療連携拠点病院（以下、がん拠点病院）の内外では、主に対面を介して行われる関係者によるさまざまな連携活動が行われている。がん拠点病院では、令和4年8月に出された「がん診療連携拠点病院の整備について」（以下、整備指針）において、がん相談支援センターの周知について、特に「外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センター（以下、相談支援センター）を訪問（必ずしも具体的な相談を伴わない、場所等の確認も含む）することができる体制を整備することがのぞましい」ことが明記されて以降、どのように院内での体制整備を行うか、課題としてあげられているという声が聞かれている。そこで、本年度は、この“外来初診時からの相談支援センターの訪問”について取り組み、実際に相談者数の増加につながっている事例紹介を含む講演会を開催することで、取り組みの情報共有をはかること、また、現在の相

談支援センターの運営上の困りごとを収集し、対応策を検討することを目的とした。

B. 研究方法

2024年11月27日（水）11:30-13:00のスケジュールで、「がん相談支援センター向けオンライン講演会」を厚労科研高山班（23EA1025）と共に開催した。講演会申込時に、参加者の相談支援センターでの立場と「相談支援センターの運営に関する困りごと」を自由記載で求め、相談支援センターの周知に関する内容について、どのような状況で困難を来しているかについて分析・検討を行った。

（倫理面への配慮）

講演会時に収集した自由回答等の内容については、個人情報を除いて講演会及び報告書等に活用させていただき旨をあらかじめ周知し承諾を得た上で実施した。また本内容は、施設の体制や状況に関するものであるため、個人情報保護上は特に問題は発生しないと考える。

C. 研究結果

「がん相談支援センター向けオンライン講演会」

の申込者は514名で、そのうち自由記載で困りごとについて記載したのは169名であった。記載された内容全186件のうち、相談支援センターの周知や来院時の訪問に関する内容は、全体の中で最も多く、全体の43.5%であった。

相談支援センターの周知や来院時の訪問に関する内容を見てみると（附表）、相談支援センターの周知に関しては、医師や医療従事者への院内の周知がうまくいかないといった声が多く、その背景として、大規模の病院でスタッフが多いことやスタッフの入れ替わりが激しいこと、また総合病院等で組織的な相談の窓口が複数あるなど、各病院の事情により苦慮している様子を示すものも散見された。また来院時訪問については、取り組みたいと考えているものの、具体的なやり方がわからないといった声も散見された。

D. 考察

相談支援センターの運営上の困りごととしてあげられていた内容には、周知や来院時の訪問に関するものが最も多かった。また具体的な取り組み内容を知りたいという声も多く、相談支援センターの関係者らが関心を持って取り組んでいることがうかがえた。がん拠点病院の規模や特徴が異なることから、一手法による解決策や具体的な方法の提示は難しいと考えられるが、今回行ったようなオンライン講演会のような場を通じて、各施設の工夫や取り組みを知ることで、自施設に役立てられる方策も見つけやすく検討できるのではないかと考えられた。また相談支援センターの現場での対応が難しくなっている背景として、相談支援センターだけでは解決が難しい内容も多々含まれており、厚労省が示している整備指針の内容が広く、各がん拠点病院の医療従事者等の職員に浸透するための努力もまた必要

であると考えられた。

E. 結論

本検討では、オンライン講演会の参加者の困りごとを分析し、今後の方策のヒントを得ることを目的とした。“外来初診時からの相談支援センターの訪問”の実際の取り組みに関する関心は非常に高く、多くの現場で運営上の懸念としてあげられていることが示された。また行うオンライン講演会による好事例の紹介により、対応策のヒントをえることにつながると考えられた。一方で相談支援センターの現場のみでは解決が難しい院内環境や組織体制の課題もあり、がん拠点病院内の全職員に、整備指針の内容を広く浸透させるための方策も必要であると考えられた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他
なし

附表. オンライン講演会（申込時）にあげられた「がん相談支援センターの運営上の困りごと」で“周知”に関する内容（68件）

分類ラベル	がん相談支援センターの運営についての困りごと等	がん相談支援センターにおける立場
院内周知	困りごと：総合病院であり、病院の相談支援窓口とは部署が異なっていることなどあるため、がん相談支援センターの院内周知が難しい。	相談員
院内周知	院内周知が十分できていないため、好事例を参考に聞きたい。	相談員
院内周知、運営困難	外来医師や看護師、クラークの協力が必須になると思いますが、入れ替わりがあるためがん相談支援センターでの業務内容が周知されていなかったり、引継ぎもされていないことが多いことや、各々の意識が違う事もあり運営困難な場面が多々ある。	相談員
院内周知	患者家族とともに院内スタッフへの周知も難しいと感じている	相談員
院内周知、患者周知	院内スタッフへ向けての周知活動、患者に向けての周知についての工夫を知りたい。	相談員
院内周知、相談員体制	院内周知 相談員体制の構築	相談員
院内認知度、院内協力・バックアップ	がん相談支援センターの院内での認知度が、低い 病院としてのバックアップが乏しい	相談員
周知	病院規模が大きく、スタッフの入れ替わりも激しい中で、スタッフに対するセンターの周知が進みにくい。協力が得られる部署には案内を依頼したりパンフレットを配架するなど工夫はしているが、効果的で効率的な方法があれば知りたい。	管理者
周知	<がん相談支援センターを訪問することができる> 体制構築のために院内委員会議題にあげて検討していますが、今一つ実現可能な具体策がでず行き詰っている感がある。理由の一つには、総合病院のため対象のピックアップが難しいことがある。	相談員
周知	がん相談支援センターの周知について（院内スタッフ、患者、地域の方）	相談員
周知	相談支援センターの周知に際し、働きかけている工夫点	相談員
周知	がん患者さんへ相談支援センターを周知して、かつ活用していただく方法について知りたい	相談員
周知	周知の方法 業務量が増えているが人材が要件上、確保しにくい事	相談員
周知	がん相談支援センターや AYA 相談窓口について、院内でも患者さんへの周知を図ってもらうために診療科ごとにリーフレット等を配布してもらうようお願いしているが、なかなか浸透しません。がん以外の患者さんもいる中で、効果的に周知をする良い方法があれば知りたい。	相談員
周知	外来でパンフレットを配布したり、外来待受画面で PR したりしていますが、相談者の数が伸びないので困っている。どのように P R したら効果的かを知りたい。	相談員
周知	より多くの患者に介入したいが、案内や広報をしてもがん相談支援センターの存在を認識してもらうのが難しい。	相談員
周知	がん相談支援センターの周知	相談員
周知	より多くの方にがん相談支援センターを知っていただき、利用いただく工夫	相談員
周知	周知向上	相談員
周知	がん相談支援センターの広報の仕方について、工夫されていることをご教授いただきたい。	相談員
周知	がん相談支援センターについて、院内医療者への広報・周知などの工夫などありましたら教えてほしい。	相談員
周知	がん相談支援センターの周知と、周知されているかどうかを評価することが難しい	相談員
周知	がん相談窓口の周知方法	相談員
周知	周知しているが、病院の掲示板等の規定があり、なかなか周知しきれしていない。	相談員
周知（医師）、院内理解・協力	主治医からがん相談支援センターの案内件数が増えない、がん相談支援センターのタスクが多いのに対し病院全体の理解、協力が得づらい	相談員
周知（院内周知）	院内周知をしているが、なかなか医療者の患者にがん相談支援センターの案内がすまない	相談員
周知（特に医師）	医師へセンターの機能の周知が行き届かない。	相談員
周知（理解内容）	がん相談支援センターの機能や役割を誤って医療者からの案内されていることがある	相談員
周知（わかりやすく）	認定看護師が行うがん相談と MSW が行うがん相談、がん相談支援センターと地域医療連携センターなど同じ場所で違う業務内容を行っています。患者さんにわかりやすく提示するにはどのように工夫されているか知りたい。	管理者
周知、院内取り組み	院内周知が進まないこと。病院全体での取り組みのための活動など知りたい。	相談員
周知、がんサロン利用者増加	いかにがん患者または家族に知ってもらい利用してもらえるようにするか。がんサロンへの参加人数を増加するための方法	相談員
周知、上層部の理解	がん相談支援センターに、送付されてくる冊子やチラシ、院内の情報提供の為の資料等々を管理するためなど、事務担当者の配置が望まれますが現状は難しい状況です。PDCA の項目には入ってきているが、病院管理者に向けて指導等々を是非ともお願いしたい。	相談員
周知、スペース等の整備	相談窓口の周知（院内の他、院外も）について、相談支援センターのスペース等の整備について	相談員
周知、組織の理解	がん相談支援センターのマンパワーと周知（認知）度との関係 利用者が増えることで組織が人的体制の改善が図れるか	相談員

分類ラベル	がん相談支援センターの運営についての困りごと等	がん相談支援センターにおける立場
周知、対応件数の計上の仕方、ピアサポーター活用、院内連携	がん相談支援センターの周知の工夫、対応件数の計上（他の相談窓口との連携）、ピアサポーターの活用の工夫、多職種による AYA 世代支援における連携の工夫	相談員
周知、評価	周知と評価	相談員
周知、来院時訪問	告知時等にセンターのパンフをお渡ししていますがそこから相談に来られる人は少ない。一度は相談室に足を運んでいただくために何かいい方法があれば、ぜひ伺いたい。相談室(相談員在中)が診察室とは別の棟にあるのも影響しているか。	相談員
周知、来院時訪問のシステム作り	総合病院です。その中で、がん患者さんに「がん相談支援センターに立ち寄ってもらう」ことはなかなかハードルが高いと感じている。まずは院内スタッフに周知し、案内してもらうことから始まると思う。周知やアナウンス、システム作りで工夫はあるか。	相談員
周知の工夫	患者向け、院内医療者向け両面から、がん相談支援センターの周知の工夫を知りたい。	相談員
周知方法（具体策）	がん相談支援センターの周知・広報活動；がんと診断された方々に対して、まずは「がん相談支援センター」というセクションがあり、相談できる場所を知って頂ければと考えている。実際には他施設でどのような案内やフローに基づきご案内しているか。	相談員
相談件数（周知）	相談件数を増やしたい	相談員
認知度向上	認知度をあげるにはどうしたらよいか。	相談員
認知度向上、院内周知	がん相談支援センターの認知度が低い。患者や家族だけでなく、院内の職員も活動内容などの認知度も低いこと。	相談員
来院時周知と解釈	治療開始までに必ず一度は必ず相談室利用に繋げる体制の工夫、場所の確認でも可をどう解釈すれば良いのか。来室確認方法など具体的にどうされているのか教えていただきたい。	相談員
来院時対応	外来初診時から治療開始までに、がん患者及びその家族が一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制を整備することが求められているが、どのように体制を整備したらよいか悩んでいる	相談員
来院時対応	がんと診断されてから一度はがん相談を通る仕組みの確立がなかなか難しい。もってがん相談を活用してもらえるために他の施設ではどのような工夫をしているのか知りたい。	相談員
来院時対応、サロン運営・ピアサポート活用	がん患者が診断早期にがん相談支援センターに立ち寄ることのできるシステムの構築。がん患者サロンの運営やピアサポートの活用（各病院が必ずしも行う必要があるのか）。	相談員
来院時対応の評価や基準	「がん相談支援センターに必ず一度は訪問」する体制を整えているが、必須要件となった際、何をどこまで求められるのか（件数や評価）がわからないと周囲の理解を得にくい部分があるため、基準を明確に示してほしい。	相談員
来院時訪問	講演にもある来院時にいかにがん相談につなげていくか、病院全体での体制づくりが必要かと思う。	相談員
来院時訪問	がん患者が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制整備の具体的な方法について、他施設の取り組みを学びたい。	相談員
来院時訪問	がんと診断された方が、がん相談支援センターを必ず訪れてもらうことの良い運用が知りたい。	相談員
来院時訪問	来院時にがん相談に繋げる体制が進まない。	相談員
来院時訪問	初診時からの窓口の周知をするために、多職種へ働きかけてはいるが、なかなか浸透しない。	相談員
来院時訪問	初診時から治療が始まるまでに一度はがん相談支援センターを訪れていただく（場所の確認のみでもよい）という厚労省の指針に向けて、日々取り組んでいます。一般外来から紹介いただくことの難しさとその評価が難しく、他施設でどのように取り組んでいるのか知りたい。	相談員
来院時訪問	診断から治療前までにがん相談支援センターに立ち寄る仕組みについて、大学病院ではどのように行っているのか知りたい。	相談員
来院時訪問	現在は、努力目標として院内のがん患者が、がん相談支援センターで相談することがあげられているが、他施設ではどのような取り組みをされているか、知りたい。	相談員
来院時訪問	がんと診断された方に一度はがん相談支援センターに来てもらうという要件を叶えるために、どのような取り組みや工夫ができるか。	相談員
来院時訪問	がん相談支援センターの周知を初診時からはハードルが高い	相談員
来院時訪問、院内周知	治療前の患者さんの相談件数が少なく、どのように院内で広めていくとよいか他施設でのよい取り組みがあれば知りたい	管理者
来院時訪問、周知	「診断時からの緩和ケア（がん相談支援センターへのつなぎ）」に関する医局含めた院内での広報・周知の工夫、患者・家族への広報・周知への工夫	その他
来院時訪問、周知	全てのがん患者にがんの診断の時からのがん相談支援センターの利用を周知するための工夫	管理者
来院時訪問、上層部調整	外来初診時から治療開始までに必ず一度はがん相談支援センターを訪問する体制を病院として取り組むために上層部へどのような調整をしたらよいか教えていただきたい。	相談員
来院時訪問、人材確保	がんと診断された患者・家族が一度はがん相談支援センターを訪れる院内の体制づくりについて。がん相談支援センターの人材確保も難しい。	相談員
来院時訪問、人材確保	がん相談支援センターを訪問することができる体制整備に苦慮している	相談員
来院時訪問、相談員教育・育成	① がん診断時からがん相談センターを知って頂く、また利用して頂くための工夫②相談員の教育	管理者
来院時訪問、フィードバック、がんサロン運営の負担軽減	広報の課題（必ず一度は訪問）、相談者からのフィードバックを得る体制について、がんサロン運営の負担軽減の方法	相談員

分類ラベル	がん相談支援センターの運営についての困りごと等	がん相談支援センターにおける立場
来院時訪問と対応、質	がんと告知された方全てががん相談支援センター利用できるような体制はまだできていない。もし全てのがん患者さんががん相談支援センターに来室するようになった場合には、対応できるマンパワーはなく、質の低い対応になってしまうことが予測される。	相談員
来院時訪問の仕組み	がんと診断された方が、立ち寄っていただけるような流れや、仕組みについてほかの医療機関さんの取り組みを知りたい	相談員